

2018

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.57

2100年の熱中症搬送者数:12万人予想

— 東京で43.6℃、名古屋で43.9℃と観測史上1位の記録を更新!?

猛暑の日が続いている。この原稿を執筆している時点で、国内初の41.1℃が2018年7月23日に埼玉県熊谷市で観測され、青梅市でも40.8℃と東京都の観測史上初の40℃超えが記録された。西日本中心に豪雨に襲われ大きな被害を受けたと思いきや、それに続いたの異常気象である。さらには1951年からの観測史上初めてという東から西に移動する台風12号の西日本横断も発生した。いや、既に異常気象という言葉さえ無意味ようになっており、日本は東南アジアよりも暑いとさえ評されている。おそらく読者の皆様が本稿を読まれている時点でも、まだまだ暑い日が続いているのではないだろうか。

このような時に注目を浴びているのは環境省が発表している「2100年の未来の天気予報」という予測データである。この予測によると、次のようなニュースが報道される可能性があるとしている。「2100年の夏も全国的に猛烈な暑さです。特に西日本や東日本では気温が上がり、高知県四万十市では、44.9℃、名古屋で43.9℃、東京でも43.6℃と観測史上1位の記録を更新。この暑さの影響で、今年は今日までに熱中症で全国12万人が病院に搬送されています!

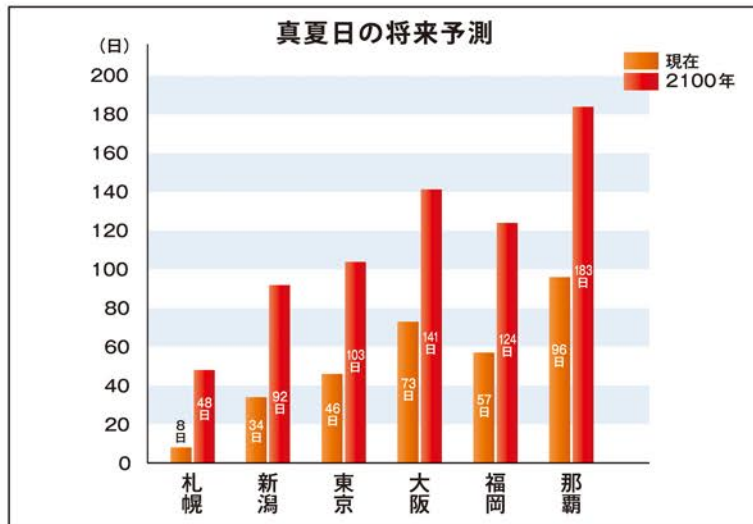
昼間の気温が30℃以上の真夏日ですが、那覇で183日(6カ月)・大阪で141日(4カ月半)・東京で103日(3カ月半)・札幌でも48日(1カ月以上)となっています。この記録的な暑さはまだまだ続きそうです」

もちろんこれは、あくまで予測であるが今年の酷暑の日々を体験すると現実味を帯びてくる。

2100年の未来の天気予報では、暑さだけでなく、色々な災害についても言及しており、こんな天気予報が流れるかもしれないとも言われている。

「大雨情報です。上空には強い寒気が入り、大気の状態が不安定になっています。全国の所々で、1時間に100mmを超える猛烈な雨が降り、河川の氾濫や土砂災害など被害が発生しています」「大雨が降っている地域がある一方で全く雨が降らず、農作物が枯れるという被害が発生しているところもあります」

出来れば、こんな予報は外れて欲しいものである。しかし、近年の天候動向を見ると、むしろ2100年よりも早まって起こるような気さえする。



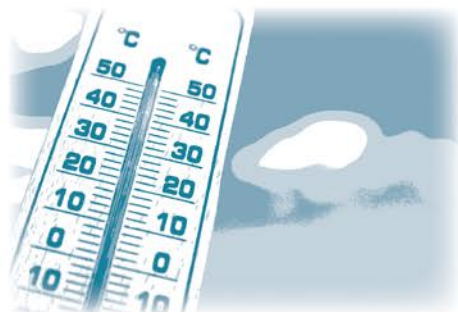
出典: バンフレット「21世紀末における日本の気候」P8 (環境省・気象庁)より

■参考資料
環境省の発表した2100年の未来の天気予報
<http://www.tenkinoarekore.com/entry/2018/07/23/163303>

2100年の天気は? 地球温暖化防止コミュニケーター出前授業スタート!!
<http://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/topics/20170519-01.html>
<https://ondankataisaku.env.go.jp/communicator/>

東京が44℃に? 2100年「未来の天気予報」フジテレビ【とくダネ!】|JCCテレビすべ
<http://jcc.jp/news/13722299/>

地球温暖化の現状 | COOL CHOICE 未来のために、いま選ぼう
<http://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/sp/ondanka/>



美楽からの一言

既に「異常気象」という表現ではなく、日常とも言える異常な気象状況。どこかの大統領のように自国ファーストを掲げていては解決できない事態になりつつある。子供たちの未来のためにも、地球全体の課題として国家間を乗り越えて対処して欲しいものである。